



慶應義塾大学ビジネス・スクール

5

三井物産の創立と総合商社化

まえがき

三井物産株式会社は、戦前、三井財閥の中の有力会社であると同時に、ズバ抜けた実力を誇る総合商社であった。三井物産とともに、占領政策によって解体され、戦前総合商社のナンバー2といわれた三菱商事も、三井物産の足元にも及ばず、かろうじて昭和10年代において若干の差をつめることができたにすぎない。占領軍による解体と占領政策終了後の再統合過程の失敗が、今日、三井物産を5大総合商社の中で万年首位候補の地位に押しやっているにすぎない。

三井物産は、何故に、戦前最大最強の総合商社になることができたか？、以下、明治年間の時期に範囲を限って事実をまとめ、上記の設問に答えられるようにしたい。

1 創立期の三井物産

三井物産は、明治9年7月1日、三井銀行と同じ日に創立された。三井組国産方と先收会社という二つの事業体の合併によるものであった。創立と同時に先收会社の人員、業務を吸収し、次いで11月国産方のそれらを引き継いだ。

三井組国産方は、三井組御用所府県為替方に付属した米穀売買機能（図1参照）にその他の産物売買、江戸時代以来の伊豆七島産物委託販売（島方）や呉服店の生糸輸出（糸方）などが合流して、明治7年8月に独立した組織である（独立の3ヶ月前に御用所は三井組為替バンクと改称していた）。

先收会社は、井上馨が設立した会社である。政府部内の対立から明治6年5月下野した井

このケースは、森川英正教授がクラス討議の基礎資料として作成したものであり、経営上の適切もしくは不適切な状況処理を例示しようとするものではない。なお、ケース中の固有名詞は偽装されている。（1990年4月作成）

30